

Z-2:賛助会員セッション クラリベイト

開催日時 9月18日(金曜日) 9:00 - 10:30

論文データを自学の取組みに生かすための試行的分析 ～学際融合指標と研究資金採択機関分析の試み～

クラリベイトのセッションでは、論文データを分析だけにとどまらずに自学の取組みや戦略、研究資金獲得力強化に生かしていくということをテーマに2つの発表を行います。

最初は「神戸大学における学際融合研究の現状把握に向けた試行的分析」と題して、神戸大学シニアリサーチマネージャーの寺本氏にご講演いただきます。

【講演概要】神戸大学の戦略の柱の一つとして文理融合・学際融合を掲げているが、戦略の効果を定量的に示す方法はこれまで提示されてこなかった。学際融合指標は書誌計量学において研究されているが、本試行的分析では学際融合指標の一つである integration index について算出し、研究者や部局のミクロなレベルでその研究活動の実態と指標を比較し、指標の妥当性について検証した。今回の分析である一定の妥当性が確認できたため、今後、この指標を活用して、文理融合・学際融合の現状把握・促進や研究成果のアピールに向けた活用案について検討したい。

次にクラリベイトから「新型コロナウイルス感染症関連研究資金の採択機関の分析」と題して、公開されている新型コロナウイルス関連の研究資金の採択状況を踏まえた分析結果を紹介いたします。

【講演概要】新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連の研究開発の課題に対応するため、政府は補正予算を編成し、大規模な研究予算が割り当てられた。日本医療研究開発機構(AMED)は診断、治療、予防に関するさまざまな研究開発課題を支援しており、すでに多くの研究開発課題が公募・採択されている。本講演では、AMEDのCOVID-19関連研究の採択機関について、その機関の研究者や論文発表の特徴を分析し、他の大学が関連予算の獲得のヒントとなるような分析を紹介する。

セッション担当者

熊谷 美樹：クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社
サイエンス事業部
シニア・ソリューションコンサルタント



2007年よりクラリベイト・アナリティクス・ジャパン勤務。知的財産ソリューション事業部を経て、2015年よりサイエンス事業部にて研究分析ソリューション担当。大学・研究機関・企業の研究業績分析、海外向け情報発信等の支援に携わる。

登壇者



寺本 時靖: 神戸大学学術研究推進機構 学術研究推進室
シニアリサーチマネージャー

学位取得後ライフサイエンスの博士研究員を努めた後、2009年から金沢大学でURAとしてのキャリアをスタート。科研費の支援や若手研究者の支援、大学の研究戦略立案 支援など幅広い業務を経験する。またURA組織化にも関与する。2014年に母校の神戸大学へ移籍。これまで大小200件以上の申請支援や企画、2つの大学の研究戦略に携わる。特にマネジメントと若手研究者支援、プロジェクト創生に興味を持っており、知識と経験を蓄積中。



中村 優文 : クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社
サイエンス事業部 プロフェッショナルサービス
ディレクター

大手シンクタンクにてアナリストとして従事後、2011年にクラリベイトに入社。コンサルタントとして論文データを活用した研究戦略策定支援業務に多数実施。2016年からはWeb of ScienceやInCitesなどの製品および分析サービス全体を統括し、2020年からは再び分析・コンサルティング部門にて、大学、製薬企業、官公庁等へのプロジェクトに従事している。